



Title	文藝春秋
Author(s)	
Citation	OUFCブックレット. 2018, 13, p. 115-121
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/71870
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

文藝春秋

1 巻 1 号 (1923.1) ～ 現在, 東京: 文藝春秋社

54 巻 1 号 (1976.1) ～ 60 巻 12 号 (1982.12)

大阪大学附属総合図書館 (調査: 岡野翔太, 2018 年 4 月)

54 巻 1 号 (1976 年 1 月) なし

54 巻 2 号 (1976 年 2 月)

世界のふるさと料理⑧<中国> (陳舜臣)

54 巻 3 号 (1976 年 3 月) なし

54 巻 4 号 (1976 年 4 月)

世界のマスコミ 「発見された故周恩来首相の遺書: ソ連の対中政策の真意」

54 巻 5 号 (1976 年 5 月)

中国を解くカギ・食糧問題: 「農業は大業に学ぼう」と叫ぶ毛沢東の真意を探る (中国を考える会)

54 巻 6 号 (1976 年 6 月)

天安門事件を占う: 日本の新聞が書けない中国のナゾをどう解けばいいか? (林景明)

54 巻 7 号 (1976 年 7 月) なし

54 巻 8 号 (1976 年 8 月)

世界のマスコミ, 毛以後の中ソ和解はありうるか: 米中ソ三極外交の行方

54 巻 9 号 (1976 年 9 月) なし

54 巻 10 号 (1976 年 10 月)

北京の地震: こんどはなぜ地震予知ができなかったか (夏之炎)

54 巻 11 号 (1976 年 11 月)

毛沢東なき中国はどうなるか: 未来小説北京のいちばん寒い冬 (夏之炎)

54 卷 11 号 (1976 年 11 月)

毛沢東の偉大と悲慘 (マーク・ゲイン)

54 卷 11 号 (1976 年 11 月)

わたしの中の李香蘭: 戦乱を二つの顔で生きた女の受け身の強さ (澤地
久枝)

54 卷 12 号 (1976 年 12 月)

なし

55 卷 1 号 (1977 年 1 月)

鑽天揚 (陳舜臣)

55 卷 1 号 (1977 年 1 月)

江青と毛沢東: ある夫婦の物語 (川島芳太郎)

55 卷 1 号 (1977 年 1 月)

北京のいちばん寒い冬 (夏之炎)

55 卷 2 号 (1977 年 2 月)

北京のいちばん寒い冬: 完結編 (夏之炎)

55 卷 3 号 (1977 年 3 月)

毛沢東のまぼろし: 八億人民に君臨した「東洋の巨人」とは一体、何者
だろう? (鈴木明)

55 卷 4 号 (1977 年 4 月)

わが弟・王貞治 (王鉄城)

55 卷 5 号 (1977 年 5 月)

なし

55 卷 6 号 (1977 年 6 月)

ソ連は中国に何をしたか: プレジネフ書記長への公開質問状 (夏之炎)

55 卷 7 号 (1977 年 7 月)

天安門が揺れた日: 北京からの極秘情報 (中邦仁)

天安門城壁の血涙詩: 事件後はじめて公開された中国民衆の真の声 (竹
内実 [訳])

55 卷 8 号~55 卷 9 号

なし

55 卷 10 号 (1977 年 10 月)

鄧小平語録ベストテン: 名高い黒白猫論から痛烈な四人組風刺まで (林

景明)

55 卷 11 号 (1977 年 11 月)

満州の妖怪：岸信介研究 (田尻育三, 竹村好夫, 小野志朗, 塩田満彦)

55 卷 11 号 (1977 年 11 月)

二通の手紙：鄧小平論 (中邦仁)

55 卷 12 号 (1977 年 12 月)

中国の英語授業参観記：「外人客展示用」中国の裏に素顔の中国がある
(松野操平)

56 卷 1 号 (1978 年 1 月)

動き出した日中条約 (赤坂太郎)

56 卷 2 号 (1978 年 2 月)

なし

56 卷 3 号 (1978 年 3 月)

テロルの決算 (沢木耕太郎)

56 卷 4 号 (1978 年 4 月)

赤い近衛兵八三四一部隊：カゲで中国を動かしてきた毛親衛隊の正体
は(中邦仁)

北京大学入試 今と昔：第一号卒業生として中国統一入試に想うこと
(吉川祐子)

56 卷 5 号 (1978 年 5 月)

なし

56 卷 6 号 (1978 年 6 月)

尖閣列島は誰のものか：「領海侵犯」の裏に隠された中国の狙いは何
か(林景明)

56 卷 7 号 (1978 年 7 月)

なし

56 卷 8 号 (1978 年 8 月)

米中・このしたたかな関係 (松尾文太)

56 卷 9 号 (1978 年 9 月)

中国・ベトナムはなぜ仲が悪い (川本邦衛, 近藤紘一)

56 卷 10 号 (1978 年 10 月)

なし

56 卷 11 号 (1978 年 11 月)

北京に敗れた外務省（小林裕）

天皇と鄧小平の会見：中国に対し戦後日本が抱く鬱積した想いとは（池田清）

“長谷川テルへの旅：「売国奴」と呼ばれた反戦エスペランチストの遺児を訪ねて、私は北京空に降り立った”（澤地久枝）

56 卷 12 号（1978 年 12 月）

十月二十三日のこと：日中両国にとり大事なものは現在と将来なのだ（田中美知太郎）

中国と戦った元兵士の感慨：条約が成立しても忘れることのできない過去（近藤芳美、駒田信二、伊藤桂一）

57 卷 1 号（1979 年 1 月）

鄧小平訪日語録の研究：「率直な発言」に籠められた深い感慨と苦悩（竹内実）

通産省：中国への危険な賭け 中国市場に殺到した企業群の甘い夢は醒めた（小木曾功）

57 卷 2 号（1979 年 2 月）

中国史書のなかの日本：「外国」の存在しない中国的世界観の面白さ（陳舜臣）

57 卷 3 号（1979 年 3 月）

中国の“自転車泥棒”裁判：文革後初めて公開された法廷で私は目撃した（葉山水樹）

57 卷 4 号（1979 年 4 月）

ベトナム進攻・その日の北京：鄧小平の断乎たる決意は何を意図していたか（三岡健次郎）

57 卷 5 号（1979 年 5 月）

中ソが和解する日：“中ソ戦争” どころか、いま中国は華国鋒派の粛清と“中ソ和解”の方向に着々と動いている（長谷川慶太郎）

四月十一日、そのとき日本は：「中ソ友好同盟条約」問題にみる外務省の矛盾（中嶋嶺雄）

57 卷 6 号～57 卷 7 号

57 卷 8 号 (1979 年 8 月)

中国に吹く今日の風：指導部は民主を叫んでいるが民衆の実情は？（齊辛）

57 卷 9 号～57 卷 11 号

57 卷 12 号 (1979 年 12 月)

怒れる中国の若者たち (柴田穂)

中国的裁判への素朴な疑問（抜山映子）

58 卷 1 号 (1980 年 1 月)

中国でのテレビ出演（中内功）

58卷2号(1980年2月)

中国古寺巡礼：中国の目まぐるしい流転をどう解釈すべきか（瀬戸内寂聴）

58 卷 3 号～58 卷 8 号

58卷9号(1980年9月)

中国タイムトラベル (吉田直哉)

58 卷 10 号 (1980 年 10 月)

中国式ファッションショー (うらべまこと)

58 卷 11 号～59 卷 1 号 なし

59卷2号(1981年2月)

毛側近が裁かれる日：「四人組裁判」の背後にある壮絶な権力闘争（柴田穂）

59卷3号(1981年3月)

文革裁判と華国鋒の運命：中国に必要なのは“裁判劇”より真の民主だ
(林景明)

59 卷 4 号 (1981 年 4 月) なし

59 卷 5 号 (1981 年 5 月)

日中の懸橋郭をとみと陶みさを：中国人の妻として昭和を生きた日本人の姉妹（澤地久枝）

- 59 卷 6 号 (1981 年 6 月) なし
- 59 卷 7 号 (1981 年 7 月)
日中 持味を尊重するの輪：卑屈にも居丈高にもならず大人の関係を持
て (衛藤藩吉)
- 中国作家の見た「初めての日本」：神戸ポートピアから新宿のバーまで、
日本各地を精力的に見聞した中国人作家の熱烈報告 (劉心武)
- 衝撃の近未来小説「北京幻想曲一九八X年」(夏之炎)
- 59 卷 8 号 (1981 年 8 月)
北京幻想曲一九八X年 (夏之炎)
- 59 卷 9 号 (1981 年 9 月)
北京幻想曲一九八X年 (夏之炎)
- 59 卷 10 号 (1981 年 10 月) なし
- 59 卷 11 号 (1981 年 11 月)
北京と長春 (林健太郎)
- 59 卷 12 号 (1981 年 12 月)
“国共合作”台湾人にこそいわせてほしい：台湾を植民地扱いする国民
党支配に異議あり (林景明)
- 60 卷 1 号 (1982 年 1 月)
北京の日の丸 (谷村新司)
- 60 卷 2 号～60 卷 6 号 なし
- 60 卷 7 号 (1982 年 7 月)
鄧小平の「魔女狩り」(現代中国研究会)
- 60 卷 8 号 (1982 年 8 月) なし
- 60 卷 9 号 (1982 年 9 月)
われらルンルン台湾旋風：日本人はハングリーじゃなくなったから
ね！(涂阿玉・郭源治)
- 60 卷 10 号 (1982 年 10 月)
「保利書簡」は私が書いた：雪崩をうった日中国交正常化とは何だった
か (中嶋嶺雄)

60 卷 11 号（1982 年 11 月）

中国版“収容所群島”（F・バタフィールド）

夏之炎の最新「人民公社」事情（夏之炎）

60 卷 12 号（1982 年 12 月）

なし